未来を開く

青森産技センター報告

―31

大玉で甘みたっぷり

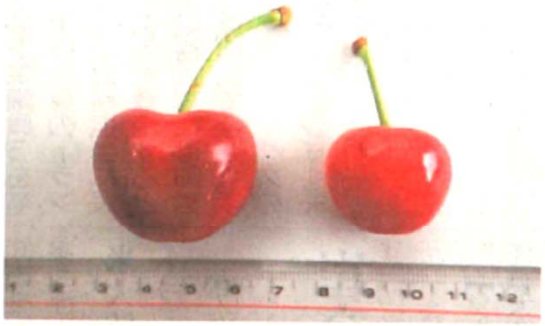
サクランボ「ジュノハート」

20年以降出荷、贈答用に

大玉で見栄えが良く、食味に優れているサクランボ「ジュノハート」。1998年、りんご試験場県南果樹研究センター（現りんご研究所県南果樹部）で、「紅秀峰」に「サミット」を交配させて育成し、2013年12月に品種登録された。名称は、ローマ神話で「女性の結婚生活を守護する女神」とされる「Junoノ」と、果実がハート型であることに由来する。

果実の大きさは、3L（横径28ミリ以上、31ミリ未満）主体で、4L（横径31ミリ以上）の比率も約15％と高いのが特徴。糖度は約20％で「佐藤錦」（約18％）より甘く、酸度は約0・5％で「紅秀峰」並みでやや低い。適度な果汁もある。果肉は「佐藤錦」より硬く、「紅秀峰」と同程度かやや軟らかい。また核（種）が果肉から離れやすい。

「ジュノハート」果実の着果状況



ジュノハート㊧と佐藤錦の果実の大きさの比較

県南果樹部（五戸町）に6～11年生の樹木が約30本あり、すべて試験研究用として栽培。今春には新たに30本植え付けた。収穫時期は7月上旬から中旬で、「佐藤錦」より遅く、「紅秀峰」よりやや早く、中晩生種に位置付けられる。

15年秋から、県内限定で苗木を販売開始。県南地域に多く販売されたが、津軽地域でも栽培されている。16年1月、本県での早期普及とブランド化を目指して、「おうとう『ジュノハート』普及促進研究会」が設立された。メンバーは、サクランボ生産者団体・組織をはじめ、農協、卸売市場関係者、苗木販売業者などで構成。大玉比率を高め、品質の高いものを安定的に生産するための栽培管理技術などについて、研修会や情報交換を行っている。

大玉で高級感があり、味が良いことから贈答用や観光果樹園での普及を見込んでいる。結実までまだ期間を要し、市場に出回るのは20年以降だが、研究会を中心に本県のブランド品種に育てていきたい。ジュノハートが起爆剤となり、サクランボ産地のさらなる活性化が図られることが期待される。

（りんご研究所県南果樹部　土嶺康憲）

東奥日報　平成28年11月11日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。